

ゴカイのなかまを 観察しよう



千葉県立中央博物館分館
海の博物館

はじめに

「ゴカイのなかま」は、釣りをしたことがある方なら「ああ、釣りえさの…」と、その姿を思い浮かべることができるかもしれませんが。一方で、その姿を見たことがなかったり、そもそも「ゴカイ」という言葉さえ聞いたことがない、という方もいるかもしれません。ゴカイのなかまは、陸上の「ミミズ」と同じ「環形動物」というグループに属しています。磯や干潟、砂浜、そして寒い海から温かい海、また浅い海から深海まで、ありとあらゆる場所に生息しています。種類も個体数も多く、生態系を構成する動物のなかでも特に重要なメンバーのひとつです。しかし、ゴカイのなかまは分類が難しいうえ、専門の図鑑などもわずかしかなかったりありません。このため、磯観察などで見つかったゴカイのなかまの名前を調べるのは、多くの場合とても難しいことです。

本書は、これまでの当館の資料収集活動の成果を反映させ、とくに千葉県沿岸で見られるゴカイのなかまをできるだけ多く掲載しました。普段あまり注目されないゴカイのなかまですが、本書がその観察のきっかけや手助けになれば幸いです。

もくじ

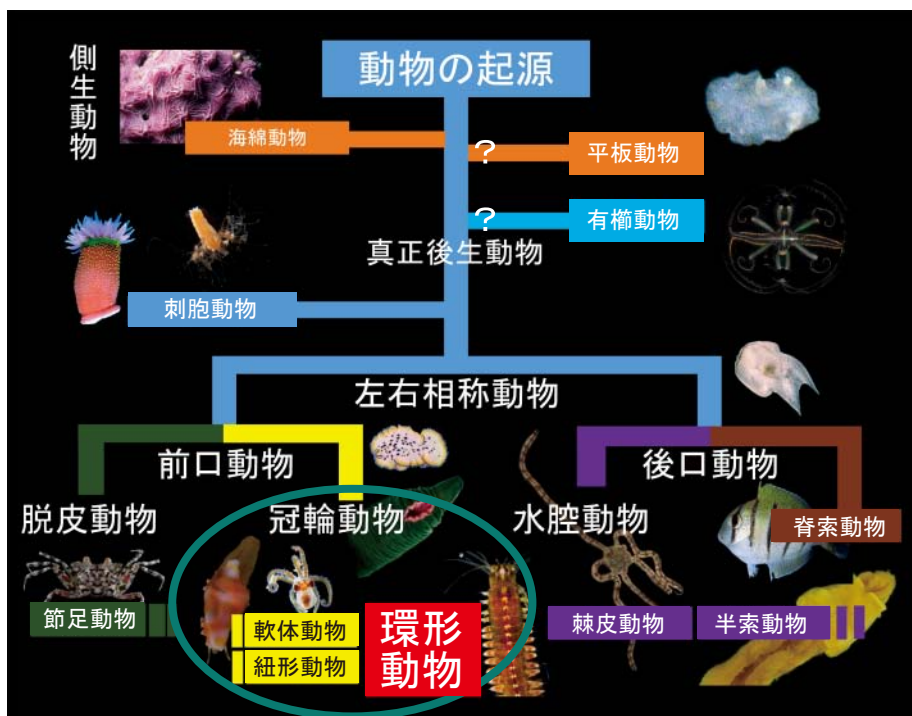
■ ゴカイは何のなかま？	3
■ いろいろな環形動物	4
■ ゴカイのなかまの体のつくり・一生	5
■ ゴカイのなかまの住んでいるところ	6
■ 千葉県で見られるゴカイ図鑑	7
■ 索引	30
■ 謝辞	31
■ 参考文献等	31

ゴカイは何のなかま？



ヤマトカワゴカイ (p. 14)

「ゴカイ」が属する環形（かんけい）動物は、一般に体が細長く左右対称で柔らかく、同じ役割・形をもった「節（体節）」が連なって構成されている、といった特徴があります。また、トロコフォア幼生と呼ばれる浮遊幼生期をもち、同様の幼生期を持つ軟体動物などと比較的近いなかまだと考えられています。環形動物は、陸上や淡水、深海から浅い海まで、地球上のさまざま環境に生息しています。本書では、このような特徴を持った環形動物のうち、旧来の分類体系で「多毛（たもう）綱」に位置づけられてきたものを「ゴカイ」のなかまとして紹介します。近年、環形動物の分類体系は大きく見直されており、「多毛綱」にまとめられてきた「ゴカイ」のなかまたちは、従来大きく異なるグループと考えられていた動物（p. 4）を巻き込んで大きく再編されつつあります。



動物の系統関係のなかでの環形動物の位置づけ

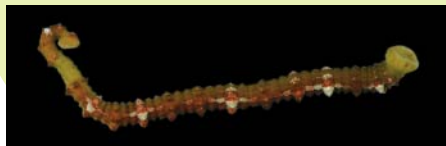
環形動物はかつて同様に体に節のあるエビやカニなどの節足動物と類縁性も示唆されていましたが、現在では「冠輪（かんりん）動物」のうち、トロコフォア幼生を持つという共通の特徴によって、貝類などが含まれる「軟体動物」に近縁であると考えられています。

いろいろな環形動物

ゴカイのなかまが含まれる環形動物には、今回「ゴカイ」として取り扱う多毛類のほか、陸上にも進出したミミズやヒルなどの環帯（かんたい）類も含まれます。そのほかにも、これまでは環形動物門とは独立したグループであると考えられていたユムシ動物や星口動物、有鬚動物などは、かつて「多毛類」としてまとめられていたいろいろなゴカイのなかまとそれぞれ近縁であることがわかってきました。また、スイクチュムシのなかまは、かつて「多毛類」の一員とされることもありましたが、その位置づけは現在も定まっていません。

ヒルやミミズのなかま

おなじみのミミズのなかまや、吸血性のヤマビルなどは、環帯類と呼ばれる環形動物の1グループです。体の前方に「環帯」を持つのが特徴です。現在では、フサゴカイ科 (p. 24) やウミイサゴムシ科 (p. 25) に近いグループであると考えられています。海産の種も少なくありません。



ネコザメに寄生するアカメウオビル 勝浦市 (KY)

ユムシのなかま

かつては独立した「ユムシ動物門」とされてきましたが、現在では環形動物門のうち、イトゴカイ科 (p. 26) やオフェリアゴカイ科 (p. 27) に近いグループであると考えられています。環形動物の特徴である顕著な体節構造は見られません。



釣り餌などに用いられることもあるユムシ 館山市北条海岸 (KY)

ホシムシのなかま

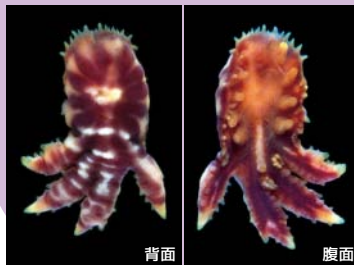
かつては独立した「星口動物門」とされてきましたが、現在では環形動物門のなかでもウミケムシ科 (p. 18) などに近いグループだと考えられています。ユムシのなかまと同様、顕著な体節構造は失われています。



砂中で生活するホシムシのなかま 勝浦市吉尾 (KY)

スイクチュムシのなかま

他の動物の体表などにくっついて暮らす寄生性のグループです。扁平の体をもつものが多く、顕著な体節構造を持ちません。スイクチュムシのなかまの分類学的位置づけは現在も定まっていません。



ウミシダ類に寄生するバンダスイクチュムシ 鴨川市 (HT)

ハオリムシなかま

ヒゲムシやハオリムシのなかまは、かつては独立した「有鬚（ゆうしゅ）動物門」とされてきましたが、現在ではミズヒキゴカイ (p. 24) やクマノアシツキ科 (p. 25)、ハボウキゴカイ科 (p. 25) に近いグループだと考えられています。口や肛門、消化管はなく、栄養は共生する細菌から得ています。

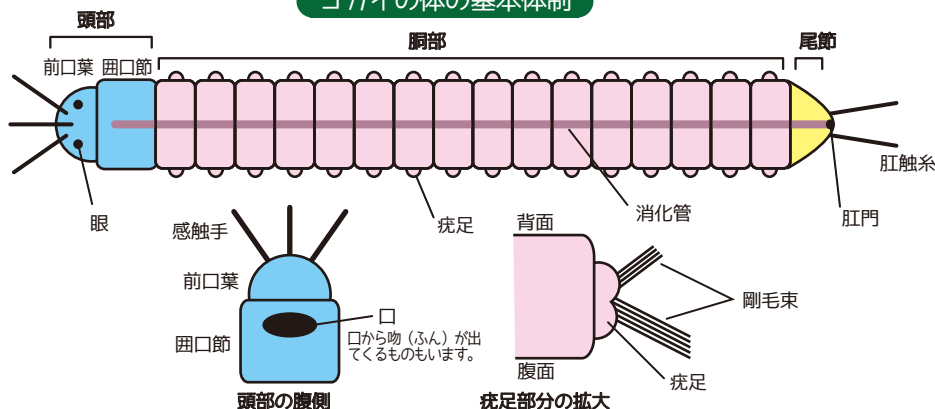


深海に住むヒゲムシのなかま 沖繩舟状海盆水深 1,300 m (KY)

ゴカイのなかまの体のつくり

ゴカイのなかまの体は、体節が繰り返してつながってつくられています。頭部は前口葉と囀口節からなり、口は囀口節に開口します。前口葉には触手などのさまざまな突起物や感覚器が集中しますが、自由に移動して暮らすものと棲管の中で暮らすなどほとんど移動しないものとは、形が大きく異なります。頭部から続く胴部では、体節の基本構造はほぼ同じで、各体節に1対の疣足（いぼあし）があり、剛毛束が備えられています。剛毛の形状やそのほかの付属物は種類によってさまざまです。後端は尾節とよばれ、多くのもでは肛触糸を備えます。消化管は基本的には1本の管状で、囀口節の腹側にある口から、多くのもでは尾節にある肛門につながっています。ほとんどのものはよく発達した閉鎖血管系をもっています。

ゴカイの体の基本体制



ゴカイのなかまの一生

ゴカイのなかまの多くは雌雄異体で、有性生殖を行います。生殖の際に海中に泳ぎ出して放卵受精するもの（ゴカイ科のなかま p. 14 やシリシス科のなかま p. 11 など）や、海底に卵のう（写真下左）を産みつけるものもいます。幼生は基本的に浮遊幼生となり、一定の期間プランクトンとして海を漂って生活します。初期の幼生は貝類と同じトロコフォア幼生で、後方に体節が追加されていくことにより徐々に細長くなっていきます。その後、再び海底に着底して底生生活をはじめます。



ギボシイノメのなかま (p. 22) の卵のう。



体節が追加されて細長くなりはじめたゴカイのなかまの浮遊幼生。プランクトンネットで採集されます。

ゴカイのなかまの住んでいるところ

ゴカイのなかまは、世界中のさまざまな水環境に生息しており、汽水域や淡水、なかには陸上の土壌中や水深 1 万メートルを超える超深海に生息しているものもあります。その多くは海産で底生生活を送っており、海底環境の指標生物ともなっています。本書では、ゴカイのなかまの生息環境について、「磯(岩礁域)」、「干潟(内湾や河口の干潟環境)」、「岸壁(護岸などの人工構造物)」、「砂浜」に大きく分けています。それぞれの環境においても、自由に動き回って生活するもの、固い棲管をつくって固着するもの、砂や泥にもぐって暮らすもの、他の生きものの上で暮らすものなど、生活スタイルも実に多様であり、あらゆる環境にゴカイあり、といっても過言ではありません。



東京湾側などの波あたりの穏やかな岩礁海岸（館山市）



外洋に面した波あたりの激しい岩礁海岸（勝浦市）



河川の河口域の泥干潟（いすみ市）



内湾の海岸や河川の河口から広がる砂干潟（木更津市）



人工的に作られた護岸（勝浦市）



砂浜海岸（館山市）

千葉県で見られるゴカイ図鑑

ここでは、千葉県周辺の海に生息するゴカイのなかまを紹介します。干潟や磯など、観察しやすい場所のゴカイを中心に、スクーバダイビングで見られる種や、漁業の混獲物などから見つかった深い海の種も含まれています。解説に示されている大きさは、写真で示した個体のおよその大きさ（全長）です。以下のマークは住んでいる場所の特徴を示しています。写真に付けられた地名はその個体が見つかった場所を示しています。また、地名の後のアルファベットは、撮影者のイニシャルです。（撮影者名は p. 31 参照）。

生息環境を表すマーク



磯 岩礁域。岩場の砂だまりなども含まれます。



岸壁 護岸などの壁面、そこに付着する生物群集のすき間など。



干潟 内湾や河口域の干潟です。泥干潟から砂干潟を含みます。



砂地 砂浜や浅い海の砂底。

生息水深を表すマーク



潮間帯 潮が引いたときに陸になる場所。



浅海 概ね数十メートルまでの海底。



深海 200メートルより深い海底。



館南町浮島沖水深 250-260 m (KY)

コガネウロコムシのなかま

Aphroditidae sp.
(コガネウロコムシ科)



フェルト状の膜の下に、ウロコムシのなかまの特徴である「ウロコ」が並んでいます。
7 cm



館山市鏡浦浅海 (KY)

コガネウロコムシのなかま

Aphroditidae sp.
(コガネウロコムシ科)



硬くて長い剛毛が目立ちます。
2 cm



銚子市君ヶ浜 (KY)

背面



疣足の拡大



サンハチウロコムシ

Hermilepidonotus helotypus (Grube, 1877)
(ウロコムシ科)

背面のウロコの色には、黒と橙色のバリエーションがあります。5 cm

ウロコ



腹面



館山市沖の島 (KY)

背面

腹面



館山市沖の島 (KY)



ハモチウロコムシ

Lepidonotus dentatus
Okuda in Okuda & Yamada, 1954
(ウロコムシ科)

イワムシ (p. 20) の棲管に
共生しています。3 cm



背面 腹面

館山市沖の島 (KY)



頭部拡大 (左: 背側, 右: 腹側)

コブツキウロコムシ

Paralepidonotus ampulliferus (Grube, 1878)
(ウロコムシ科)

ウロコに多数の顆粒があります。3 cm



ウロコムシ科

Iphionidae 科



館山市波左間 (KY)



背面 腹面

館山市沖の島 (KY)



トゲウロコムシのなかま

Iphione sp.
(Iphionidae 科)

ウロコはよく重なります。オレンジ色や褐色などの変異があります。1 cm



頭部拡大



ナガウロコムシ

Lepidasthenia izukai Imajima & Hartman, 1964
(ウロコムシ科)

勝浦市吉尾 (KY)



ウロコムシのなかまとしては細長い体をしてい
ます。ウロコが小さいのも特徴です。10 cm

ウロコムシ科のなかま

Iphionidae 科のなかま



背面 腹面

勝浦市吉尾 (KY)



鴨川市 (KY)

鴨川市 (KY)

ウロコムシのなかま

Polynoidae sp.
(ウロコムシ科)

薄い半透明のウロコを持っています。ウミトサカ類についているのが見つかります。2 cm

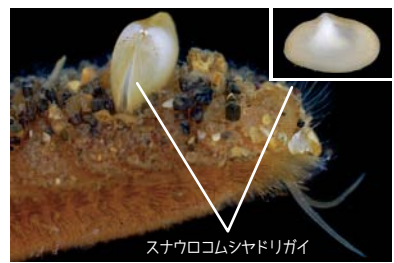


マダラウロコムシのなかま

Harmothoe sp.
(ウロコムシ科)



転石の下などで見つかります。近似種が多く見分けるのは難しいですが、よく似たマダラウロコムシは干潟でも見つかります。3 cm



スナウロコムシヤドリガイ

鴨川市内浦 (MT)



勝浦市吉尾 (KY)

フタコブウロコムシ (スナウロコムシ)

Pelogenia zeylanica (Wiley, 1905)
(ノラリウロコムシ科)



体は硬く、背面に砂粒をつけています。スナウロコムシとも呼ばれます。体表に二枚貝の仲間のスナウロコムシヤドリガイがついていることがあります (写真左)。3 cm

ウロコムシ科のなかま

ノラリウロコムシ科のなかま





勝浦市吉尾 (KY)



カサネシリス

Amblyosyllis speciosa Izuka, 1912
(シリス科)

オレンジ~褐色の個体が多く見られますが、体色はさまざまです。
3 cm



勝浦市吉尾 (KY)

シリス科

勝浦市吉尾 (KY)



フクロシリス

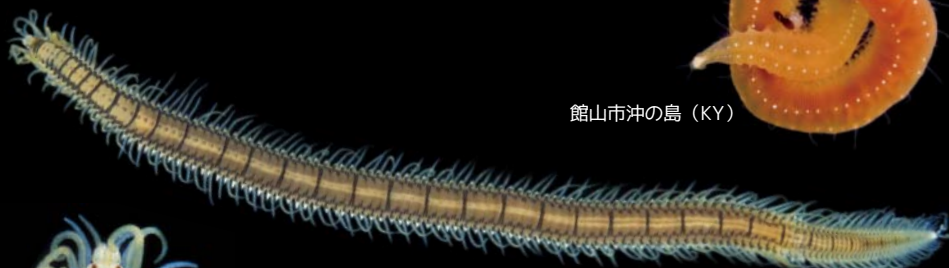
Megasyllis inflata (Marenzeller, 1879)
(シリス科)



背面に白点列が2列、頭の後ろに白斑があります。5 cm



館山市沖の島 (KY)



勝浦市吉尾 (KY)

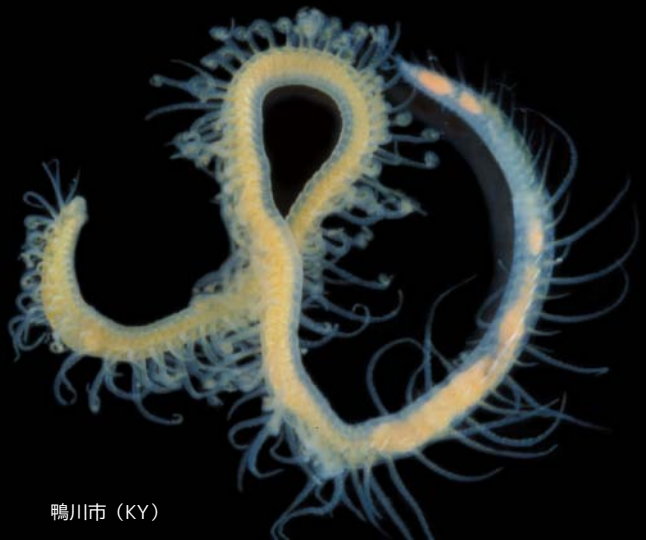
クロモンシリス

Odontosyllis madagascariensis (Gravier, 1905)
(シリス科)

転石の下などに見られます。4 cm



頭部拡大



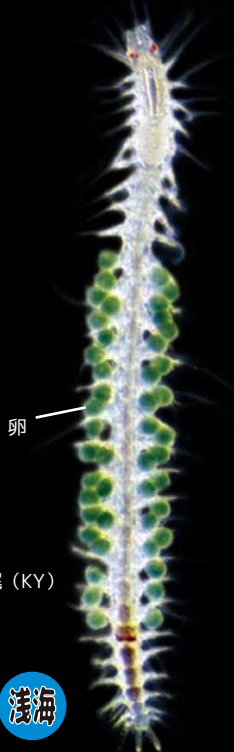
鴨川市 (KY)

シリスのなかま

Syllidae sp.
(シリスコ)



浅い海の転石の下などに見られます。2 cm



勝浦市吉尾 (KY)

タマシリスのなかま

Exogoninae sp.
(シリスコ)



卵を背中に付着させて保育します。写真は生殖のために泳ぎだした個体で、プランクトンネットで採集されました。1 cm



頭部拡大

シリスのなかま

Syllis sp.
(シリスコ)



海藻の根本などに見られます。4 cm



勝浦市吉尾 (KY)



勝浦市吉尾 (KY)



背面

腹面



ウロコサシバのなかま

Notophyllum sp.
(サシバゴカイ科)

生時は青く輝くように見えます。転石の下などで見られます。4 cm



勝浦市吉尾 (KY)

アケノサシバ

Nereiphylla castanea (Marenzeller, 1879)
(サシバゴカイ科)

細身のからだに黄色や橙のウロコが目立ちます。博物館前の磯で普通に見られます。4 cm



↑
橙色の個体

勝浦市吉尾 (KY)

↓
黄色の個体

勝浦市吉尾 (KY)



頭部拡大

勝浦市吉尾 (KY)

背面



腹面



いすみ市夷隅川河口 (KY)

ゴカイ科



背面

腹面

腹面後方がく片が一列に並ぶ

ヤマトカワゴカイ

Hediste diadroma Sato & Nakashima, 2003

(ゴカイ科)

干潟 潮間帯

千葉県では東京湾側の干潟で多く見られます。10 cm

頭部拡大



いすみ市夷隅川河口 (KY)



背面

腹面

頭部拡大

ヒメヤマトカワゴカイ

Hediste atoka Sato & Nakashima, 2003

(ゴカイ科)

干潟 潮間帯

千葉県ではおもに外房の干潟で見られます。4 cm

イトメ

Tylorrhynchus osawai (Izuka, 1903)

(ゴカイ科)

吻に前2種のようなく片ではなく、イボ状の突起があります。塩分が低い場所では見られません。10 cm

背面 腹面



頭部拡大



干潟 潮間帯

イボ状突起が並ぶ

いすみ市夷隅川河口 (KY)

コケゴカイ

Simplisetia erythraeensis (Fauvel, 1918)

(ゴカイ科)

干潟などの砂泥中に棲管をつ
くって暮らします。10 cm

市川市行徳新浜湖 (MT)

干潟

潮間帯

ゴカイ科



館山市沖の島 (KY)



背面

腹面

頭部拡大

ツルヒゲゴカイ

Platynereis bicanaliculata (Baird, 1863)

(ゴカイ科)

千葉県の大磯でよく見られるゴカイの
なかまです。8 cm

磯

潮間帯

干潟

岸壁

潮間帯

クマドリゴカイ

Perinereis euiini Park & Kim, 2017

(ゴカイ科)

頭部に歌舞伎の隈取のような模様
がある個体がよく見られます。5 cm

木更津市小櫃川河口 (KY)

ゴカイ科のなかま



勝浦市吉尾 (KY)

背面
背触系

腹面



背面
腹面



頭部拡大

ナンカイオトヒメゴカイ

Amphiduros fuscescens (Marenzeller, 1875)
(オトヒメゴカイ科)

太い背触鬃が特徴的です。転石下で見つかります。4 cm



背面

腹面

オトヒメゴカイ

Hesione reticulata Marenzeller, 1879
(オトヒメゴカイ科)

オトヒメゴカイのなかまとしては大型になります。5 cm

勝浦市吉尾 (KY)



コブオトヒメ

Leocrates chinensis Kinberg, 1866
(オトヒメゴカイ科)

オトヒメゴカイのなかまは美しい種類が多く見られます。
3 cm



館山市沖の島 (KY)

オトヒメゴカイ科

千ロリ科



背面

腹面

頭部拡大

吻(ふん)を出したところ



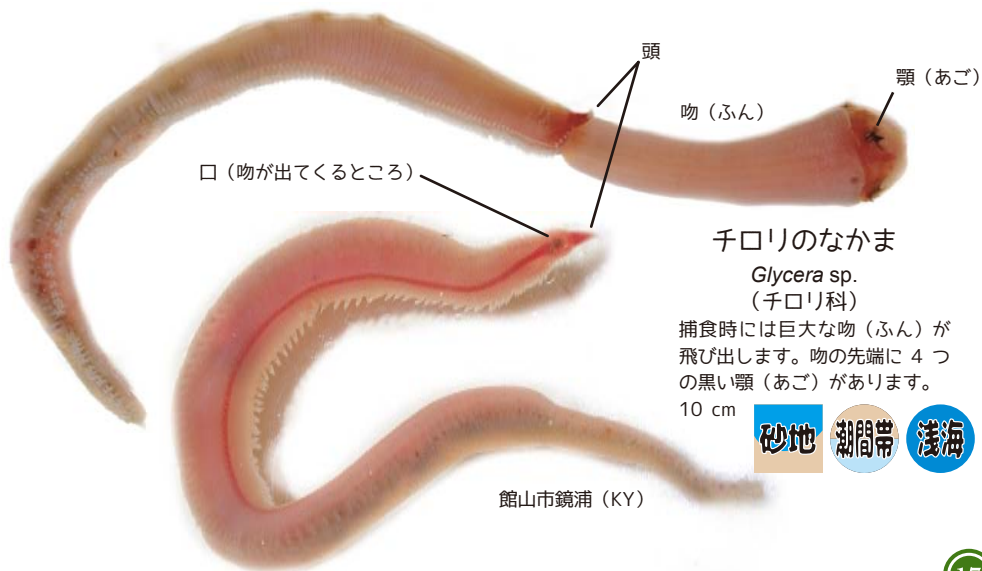
勝浦市吉尾 (KY)

千ロリのなかま

Glycera sp.
(千ロリ科)



砂浜や磯などに砂の溜まった場所に
潜っています。10 cm



千ロリのなかま

Glycera sp.
(千ロリ科)

捕食時には巨大な吻(ふん)が
飛び出します。吻の先端に4つ
の黒い顎(あご)があります。

10 cm



館山市鏡浦 (KY)

オトヒメゴカイ科のなかま

千ロリ科のなかま



館山市鏡浦 (KY)

背面

砂地 浅海

ウミケムシ

Chloeia flava (Pallas, 1766)
(ウミケムシ科)

夜釣りなどで針にかかることがあります。
トゲに毒があり、さされると危険です。
15 cm



腹面

ウミケムシ科

セナジリウミケムシのなかま

Notopygos sp.
(ウミケムシ科)

前方背面にトサカ様の隆起があります。肛門が背面にあるのも特徴です。4 cm

深海



勝浦市沖合水深約 500 m (KY)

背面



腹面



館山市波左間 (KY)

ハナオレウミケムシ

Eurythoe complanata (Pallas, 1766)
(ウミケムシ科)

浅い海の転石下などで見られます。ウミケムシと同様に刺されると痛いので注意が必要です。10 cm



背面 腹面

ウミケムシ科

ケハダウミケムシ科



鋸南町浮島沖水深約 300 m (HT)

ケハダウミケムシのなかま

Euphosine sp.
(ケハダウミケムシ科)

水深約 300 m の深海から見
つかりました。5 cm



館山市沖の島 (KY)



いすみ市夷隅川河口 (KY)

ササラウミケムシ

Amphinome rostrata (Pallas, 1766)
(ウミケムシ科)

沖合の漂流物上で生活し、エボシガイ類を捕食します。
しばしば流木やプラスチック類などについた状態で海岸
に打ち上がります。10 cm

ウミケムシ科のなかま

ケハダウミケムシ科のなかま



勝浦市吉尾 (KY)



頭部拡大

イワムシ

Marphysa sp. cf. *iwamushi*
Izuka, 1907
(イソメ科)

岩礁域の岩の割れ目などに潜みます。分類にはやや混乱が見られます。20 cm



勝浦市吉尾 (KY)



背面 腹面

頭部拡大

シボリイソメのなかま

Lysidice sp.
(イソメ科)

岩の割れ目などに溜まった小石混じりの砂中で見つかります。10 cm



頭部拡大

オニイソメ

Eunice aphroditois (Pallas, 1788)
(イソメ科)

非常に大型になるイソメのなかまで、最大 3 m にも達します。体表には金属光沢があります。1.5 m

勝浦市吉尾 (KY)



イソメのなかま

Eunice sp.
(イソメ科)

磯の転石の下などに見られます。
鰓がよく目立ちます。15 cm



銚子市君ヶ浜 (KY)



背面

腹面

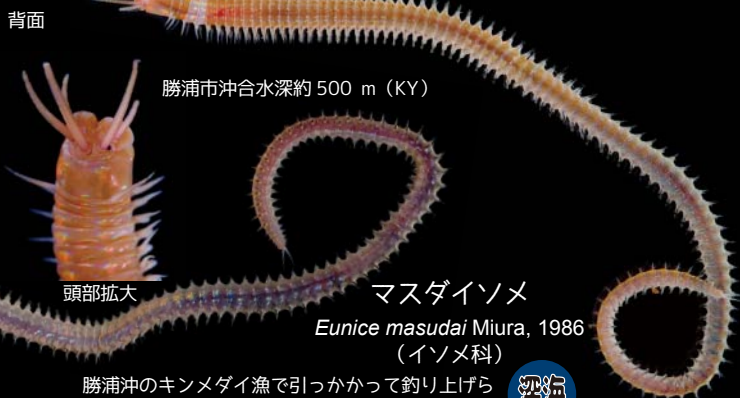
勝浦市沖合水深約 500 m (KY)

頭部拡大

マスダイソメ

Eunice masudai Miura, 1986
(イソメ科)

勝浦沖のキンメダイ漁で引っかかって釣り上げら
れた海底の岩の隙間から見つかります。20 cm



背面

腹面

勝浦市沖合水深約 500 m (KY)

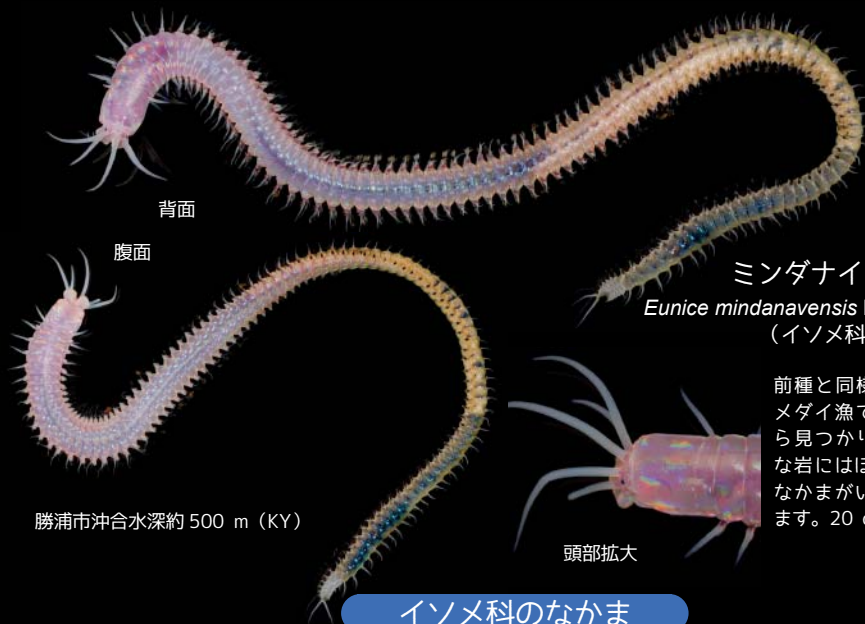
ミンダナイソメ

Eunice mindanavensis M'Intosh, 1885
(イソメ科)

前種と同様、勝浦沖のキン
メダイ漁で釣り上がる岩か
ら見つかります。このよ
うな岩にはほかにもゴカイの
なかまがいくつか見つかり
ます。20 cm



頭部拡大





背面



腹面

勝浦市吉尾 (KY)

ギボシイソメ

Lumbrineris japonica (Marenzeller, 1879)
(ギボシイソメ科)

頭部が「擬宝珠 (ぎぼし)」状になります。10 cm



頭部拡大



ギボシイソメ科

セグロイソメ科

ナナテイソメ科



勝浦市吉尾 (KY)



勝浦市吉尾 (KY)

セグロイソメ

Arabella iricolor (Montagu, 1804)
(セグロイソメ科)

ギボシイソメのなかまと同様、頭部は「擬宝珠」のようになります。15 cm



頭部拡大 (側面)



棲管に入った状態



棲管から出した状態



背側

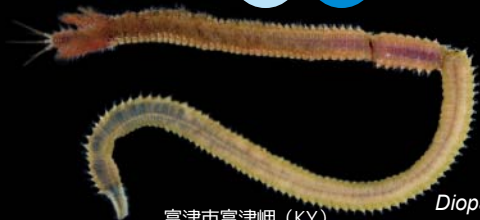
腹側

頭部拡大

スゴカイイソメ

Diopatra sugokai Izuka, 1907
(ナナテイソメ科)

干潟などで、棲管の先端が砂底から突き出ているのが見られます。30 cm



富津市富津岬 (KY)

スナタバムシ

Mesochaetopterus sp. cf. *minutus* Potts, 1914 多数の個体が集まり、マウンド状の群体をつくります。2 cm
(ツバサゴカイ科)



勝浦市吉尾 (MT)



スナタバムシの棲管
南房総市千倉 (KY)



ツバサゴカイ

Chaetopterus cautus Marenzeller, 1879
(ツバサゴカイ科)

砂泥中に U 字型の棲管をつくり
ます。30 cm



木更津市小櫃川河口 (MT)

アミメオニスピオ

Pseudopolydora sp. cf. *reticulata*
Radashevsky & Hsieh, 2000
sensu Abe, Kondoh & Sato-Okoshi, 2016
(スピオ科)

干潟で特に多く見られます。
この属には形態での区別の難
しい近縁種群が複数あります。
2 cm



市原市養老川河口 (MT)



鋸南町岩井袋 (MT)

ミツバネスピオ

Prionospio krusadensis Fauvel, 1929
(スピオ科)



砂地の浅い海
に生息します。
3 cm



市川市行徳新浜湖 (MT)

ホソエリタテスピオ

Streblospio benedicti japonica
Imajima, 1990
(スピオ科)

塩分の低いやや泥っぽい干
潟で見られます。3 cm





銚子市君ヶ浜 (KY)



フサゴカイのなかま

Terebellidae sp.
(フサゴカイ科)

転石の下などに棲管をつくります。15 cm



勝浦市吉尾 (KY)

フサゴカイのなかま

Terebellidae sp.
(フサゴカイ科)



転石の下などに棲管をつくります。10 cm

フサゴカイ科

ミズヒキゴカイ科



富津市富津岬 (KY)

ミズヒキゴカイのなかま

Cirriformia sp.
(ミズヒキゴカイ科)

砂底面に細い鰓糸のみを出し、本体は砂中に深く潜ります。ミズヒキゴカイのなかまはよく似た種類が多くて、それらを見分けるのは困難です。10 cm



勝浦市吉尾 (HT)



頭部拡大

クマノアシツキ

Acrocirrus validus Marenzeller, 1879

(クマノアシツキ科)

頭部の触手様突起が目立ちます。疣足の先端がクマの足(手)のような形状をしています(右下図中赤丸)。

5 cm



館山市沖の島 (KY)



頭部拡大 (左: 背面, 右: 腹面)



疣足の拡大

クマノアシツキ科

ハボウキゴカイ科

ウミイサゴムシ科

カンテンハボウキ

Flabelligera sp.

(ハボウキゴカイ科)

体はほぼ透明でもろく、砂や泥をまとっています。転石の下などに見られます。2 cm



鴨川市内浦 (MT)



鴨川市内浦 (MT)

ウミイサゴムシ

Lagis bocki (Hessle, 1917)

(ウミイサゴムシ科)

砂粒などで筒(棲管)をつくり、その中で暮らします。

5 cm



東京港 (MT)



クマノアシツキ科のなかま

ハボウキゴカイ科のなかま

ウミイサゴムシ科のなかま

イトゴカイのなかま

Capitellidae sp.
(イトゴカイ科)

干潟

潮間帯

干潟の泥っばいところに潜って暮らしています。とても細長く採集時にはすぐに切れてしまいます。10 cm

いすみ市夷隅川河口 (KY)



砂地

潮間帯

イトゴカイのなかま

Capitellidae sp.
(イトゴカイ科)

勝浦市吉尾 (KY)

磯場に近接する砂浜など見られます。10 cm



頭部拡大



館山市沖の島 (KY)

タマシキゴカイ

Arenicola brasiliensis Nonato, 1958
(タマシキゴカイ科)

頭部拡大

砂地

潮間帯

突き出た口吻には無数の突起が並びます。赤く見える鰓は11対あります。20 cm

イノタマシキゴカイ

Abarenicola pacifica
Healy & Wells, 1959
(タマシキゴカイ科)

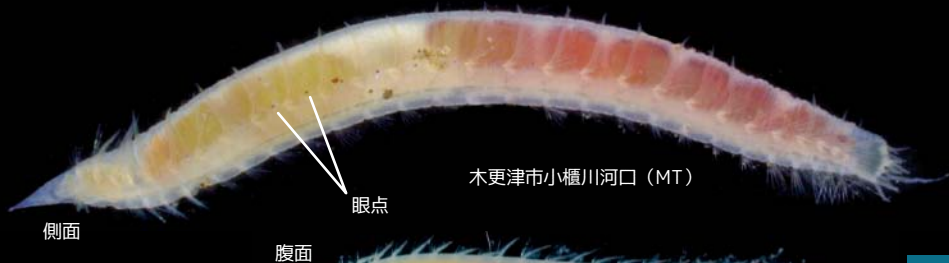
干潟

潮間帯

主に北日本に分布します。鰓はタマシキゴカイが11対なのに対し13対あります。5 cm



いすみ市塩田川 (MT)



ツツオオフェリア

Armandia sp. cf. *amakusaensis*
Saito, Tamaki & Imajima, 2000
(オフェリアゴカイ科)

干潟 潮間帯 浅海

木更津市小櫃川河口 (KY)

干潟などの砂泥に潜って暮らします。体の側面に眼点が並びます。2 cm



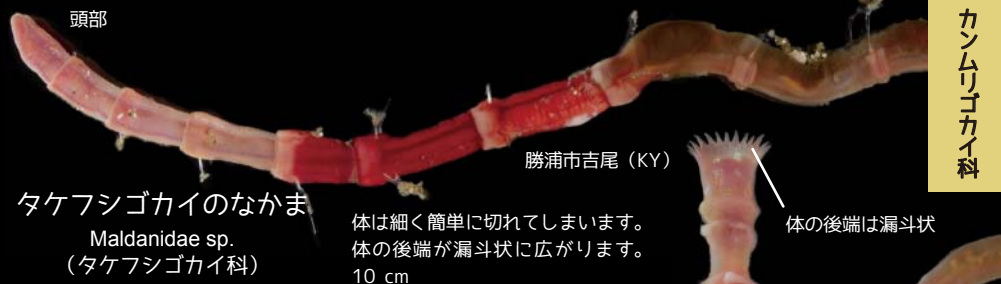
カスリオフェリア

Polyophtalmus pictus (Dujardin, 1839)
(オフェリアゴカイ科)

内湾の砂地に暮らします。1 cm

館山市沖の島 (KY)

砂地 潮間帯 浅海



タケフシゴカイのなかま

Maldanidae sp.
(タケフシゴカイ科)

体は細く簡単に切れてしまいます。
体の後端が漏斗状に広がります。
10 cm

砂地 潮間帯



銚子市君ヶ浜 (KY)

岸壁 磯

潮間帯

カンムリゴカイのなかま

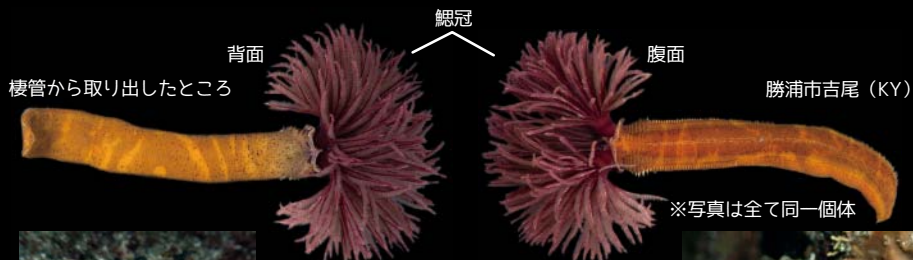
Sabellariidae sp.
(カンムリゴカイ科)

砂粒などでつくった棲管の中で暮らします。1 cm

オフェリアゴカイ科

タケフシゴカイ科

カンムリゴカイ科



※写真は全て同一個体

ケヤリムシ科

ケヤリムシのなかま

Sabellastarte sp.
(ケヤリムシ科)

岩の割れ目や岩棚の影に棲管を作って暮らします。水中では人影に敏感に反応して棲管に引っ込みます。よく似た複数種が同じ場所でも見られ、見分けるのは困難です。10 cm



鰓冠を開いたところ



棲管に引っ込んだところ



ヒガタケヤリムシ

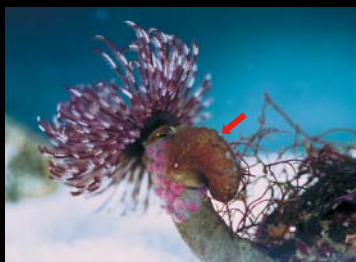
Laonome sp.
(ケヤリムシ科)

泥っぽい干潟などに生息します。4 cm

干潟

潮間帯

一宮町一宮川河口 (MT)



ケヤリムシのなかまに共生するサワラビガイ(矢印)。棲管の上部に附着して、ケヤリムシの排泄物を食べると考えられています。ピンク色の卵が産み付けられています。

館山市沖の島 (KY)



鴨川市内浦 (MT)

オオメケヤリ

Acromegalomma acrophthalmos (Grube, 1878)
(ケヤリムシ科)

砂地

浅海

鰓系の先端には大きな黒い眼点があり、影などに敏感に反応して棲管に引っ込みます。4 cm



館山市沖の島 (KY)

ミナミアラコ

Pseudopotamilla myriops (Marenzeller, 1885)
(ケヤリムシ科)

磯

潮間帯

浅海

内湾の砂地などの転石下に棲管をつくって暮らします。写真の白い筒が棲管です。15 cm



イバラカンザシ 鋸南町勝山 (HT)

Spirobranchus corniculatus
(Grube, 1862) species complex
(カンザシゴカイ科)



鰓冠の色はバリエーションに富みます。5 cm



ウズマキゴカイのなかま 勝浦市吉尾 (KY)

Neodexiospira sp.
(カンザシゴカイ科)



転石のしたなどに小さな石灰質の棲管がたくさんついているのを見ることができます (写真左下)。複数種が含まれていて識別は困難です。小型のオカダウミウシ (写真右下) のエサとして利用されます。3 mm



ヤッコカンザシ 勝浦市吉尾 (HT)

Spirobranchus kraussii (Baird, 1865)
(カンザシゴカイ科)

青白く見える棲管の先端は、すずどく尖ります。3 cm



シライトゴカイ 館山市坂田 (MT)

Salmacina dysteri (Huxley, 1855)
(カンザシゴカイ科)



石灰質の棲管をつくり群生します。5 mm



銚子市君ヶ浜 (KY)

エゾカサネカンザシゴカイ
Hydroides ezoensis Okuda, 1934
(カンザシゴカイ科)

岸壁などに多く見られます。1 cm



索引

アケノサシバ	13	ギボシイソメ	22	タマシキゴカイ	26
アミメオニスピオ	23	クマドリゴカイ	15	タマシリスのなかま	12
イソタマシキゴカイ	26	クマノアシツキ科	25	チロリ科	17
イソメ科	20	クマノアシツキ	25	チロリのなかま	17
イソメのなかま	21	クロモンシリス	11	ツツオオフェリア	27
イトゴカイ科	26	ケハダウミケムシ科	19	ツバサゴカイ科	23
イトゴカイのなかま	26	ケハダウミケムシのなかま	19	ツバサゴカイ	23
イトメ	14	ケヤリムシ科	28	ツルヒゲゴカイ	15
イバラカンザシ	29	ケヤリムシのなかま	28	トゲウロコムシのなかま	9
イワムシ	20	ゴカイ科	14	ナガウロコムシ	9
ウズメキゴカイのなかま	29	コガネウロコムシ科	7	ナナテイソメ科	22
ウミイサゴムシ科	25	コガネウロコムシのなかま	7	ナンカイオトヒメゴカイ	16
ウミイサゴムシ	25	コケゴカイ	15	ノラリウロコムシ科	19
ウミケムシ科	18	コブオトヒメ	17	ハナオレウミケムシ	10
ウミケムシ	18	コブツキウロコムシ	9	ハボウキゴカイ科	25
ウロコサシバのなかま	13	ササラウミケムシ	19	ハモチウロコムシ	8
ウロコムシ科	8	サシバゴカイ科	13	ヒガタケヤリムシ	28
ウロコムシのなかま	10	サンハチウロコムシ	8	ヒメヤマトカワゴカイ	14
エゾカサネカンザシゴカイ	29	シボリイソメのなかま	20	フクロシリス	11
オオメケヤリ	28	シライトゴカイ	29	フサゴカイ科	24
オトヒメゴカイ科	16	シリス科	11	フサゴカイのなかま	24
オトヒメゴカイ	16	シリスのなかま	12	フタコブウロコムシ	10
オニイソメ	20	スゴカイイソメ	22	ホソエリタテスピオ	23
オフェリアゴカイ科	27	(スナウロコムシ)	10	マズダイソメ	21
カサネシリス	11	スナタバムシ	23	マダラウロコムシのなかま	10
カスリオフェリア	27	スピオ科	23	ミズヒキゴカイ科	24
カンザシゴカイ科	29	セグロイソメ	22	ミズヒキゴカイ	24
カンテンハボウキ	25	セグロイソメ科	22	ミツバネスピオ	23
カンムリゴカイ科	27	セナジリウミケムシのなかま	18	ミナミエラコ	28
カンムリゴカイのなかま	27	タケフシゴカイ科	27	ミンダナイソメ	21
ギボシイソメ科	22	タケフシゴカイのなかま	27	ヤッコカンザシ	29
		タマシキゴカイ科	26	ヤマトカワゴカイ	14

Index

<i>Abarenicola pacifica</i>	26	<i>Flabelligera</i> sp.	25	Oeonidae	22
Acrocirridae	25	Flabelligeridae	25	Onuphidae	22
<i>Acrocirrus validus</i>	25	<i>Glycera</i> sp.	17	Opheliidae	9
<i>Acromegalomma acrophthalmos</i>	28	Glyceridae	17	<i>Paralepidonotus ampulliferus</i>	27
<i>Amblyosyllis speciosa</i>	11	<i>Harmothoe</i> sp.	10	Pectinariidae	25
<i>Amphiduros fuscescens</i>	16	<i>Hediste atoka</i>	14	<i>Pelogenia zeylanica</i>	10
<i>Amphinome rostrata</i>	19	<i>Hediste diadroma</i>	8	<i>Perinereis euiiini</i>	15
Amphinomidae	18	<i>Hermilepidonotus helotypus</i>	4	Phyllococidae	13
Aphroditidae	7	<i>Hesione reticulata</i>	16	<i>Platynereis bicanaliculata</i>	15
Aphroditidae sp.	7	Hesionidae	16	Polynoidae	8
<i>Arabella iricolor</i>	22	<i>Hydroides ezoensis</i>	29	Polynoidae sp.	8
<i>Arenicola brasiliensis</i>	26	<i>Iphione</i> sp.	9	<i>Polyophtalmus pictus</i>	27
Arenicolidae	26	Iphionidae	9	<i>Prionospio krusadensis</i>	23
<i>Armandia</i> sp. cf. <i>amakusaensis</i>	27	<i>Lagis bocki</i>	25	<i>Pseudopolydora</i> sp. cf. <i>reticulata</i>	23
Capitellidae	26	<i>Laonome</i> sp.	28	<i>Pseudopotamilla myriops</i>	28
Capitellidae sp.	26	<i>Leocrates chinensis</i>	17	Sabellariidae	27
Chaetopteridae	23	<i>Lepidasthenia izukai</i>	9	Sabellariidae sp.	27
<i>Chaetopterus cautus</i>	23	<i>Lepidonotus dentatus</i>	8	<i>Sabellastarte</i> sp.	28
<i>Chioeia flava</i>	18	Lumbrineridae	22	Sabellidae	28
Cirratulidae	24	<i>Lumbrineris japonica</i>	22	<i>Salmacina dysteri</i>	29
<i>Cirriformia</i> sp.	24	<i>Lysidice</i> sp.	20	Serpulidae	19
<i>Diopatra sugokai</i>	22	Maldanidae	27	Sigalionidae	10
<i>Eunice aphroditois</i>	20	Maldanidae sp.	27	<i>Simplisetia erythraeensis</i>	15
<i>Eunice masudai</i>	21	<i>Marphysa</i> sp. cf. <i>iwamushi</i>	20	Spionidae	23
<i>Eunice mindanavensis</i>	21	<i>Megasyllis inflata</i>	11	<i>Spirobranchus comiculatus</i> (sp. complex)	29
<i>Eunice</i> sp.	21	<i>Mesochaetopterus</i> sp. cf. <i>minutus</i>	23	<i>Spirobranchus kraussii</i>	29
Eunicidae	20	<i>Neodexiospira</i> sp.	29	<i>Streblospio benedicti japonica</i>	23
<i>Euphosine</i> sp.	19	Nereididae	14	Syllidae	11
Euphosinidae	19	<i>Nereiphylla castanea</i>	13	<i>Syllis</i> sp.	12
<i>Eurythoe complanata</i>	19	<i>Notophyllum</i> sp.	13	Terebellidae	24
Exogoninae sp.	12	<i>Notopygos</i> sp.	18	Terebellidae sp.	24
		<i>Odontosyllis madagascariensis</i>	11	<i>Tylorhynchus osawai</i>	14

謝 辞

以下の皆様に、標本の提供・資料収集への御協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

お茶の水女子大学湾岸生物教育研究センター 千葉県水産総合研究センター
長五郎丸（鋸南町） 東京海洋大学練習船神鷹丸
東邦大学東京湾生態系研究センター 不動丸・きよ丸（勝浦市）

参考図書等

ゴカイのなかまを専門に取り上げた図書は多くありません。一般的な海岸動物の図鑑等で紹介されているほか、以下の専門書が刊行されています。

今島 実. 1996. 環形動物 多毛類. 550 pp. 生物研究社. ISBN: 4915342103
今島 実. 2001. 環形動物 多毛類 2. 542 pp. 生物研究社. ISBN: 4915342257
今島 実. 2007. 環形動物 多毛類 3. 499 pp. 生物研究社. ISBN: 4915342516
今島 実. 2015. 環形動物 多毛類 4. 332 pp. 生物研究社. ISBN: 4915342721

また、以下のサイトでは、千葉県のゴカイのなかまが多く紹介されており、専門的な解説も充実しています。

写真図鑑 東京湾の動物たち（東邦大学理学部東京湾生態系研究センター）
<http://marine1.bio.sci.toho-u.ac.jp/tokyobay/ikimono/index.html>

海の生きもの観察ノート^⑭

ゴカイのなかまを観察しよう

2018年3月26日発行

監 修： 多留聖典（東邦大学理学部東京湾生態系研究センター）
田中正敦（鹿児島大学大学院理工学研究科）
自見直人（北海道大学大学院理学院自然科学専攻）
編集・執筆： 柳 研介（千葉県立中央博物館分館海の博物館）
写 真： 多留聖典（MT）・立川浩之（HT）・柳 研介（KY）
発 行： 千葉県立中央博物館分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123

TEL 0470-76-1133（代）

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>

（本誌掲載内容の無断転載は固くお断りします）

CMNH Field Guide Series No.14

"A Field Guide to the Polychaetes of Boso Peninsula, JAPAN"

Editing & Writing: Kensuke Yanagi (CMNH)

Editorial Supervisor: Masanori Taru (Tokyo Bay Ecosystem Research Center, Toho Univ.)

Masaatsu Tanaka (Grad. School of Sci. & Eng., Kagoshima Univ.)

Naoto Jimi (Hokkaido Univ. Grad. School of Sci., Dept. of Nat. Hist. Sci.)

Photo: Masanori Taru (MT), Hiroyuki Tachikawa (HT) & Kensuke Yanagi (KY)

©2018 Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba (CMNH)

299-5242 Yoshio 123, Katsuura, Chiba Pref., JAPAN

26 March 2018 Katsuura, Chiba



海の生きもの観察ノート⑭

ゴカイのなかまを観察しよう

CMNH Field Guide Series No.14

A Field Guide to the Polychaetes of
Boso Peninsula, JAPAN

CMNH

Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba